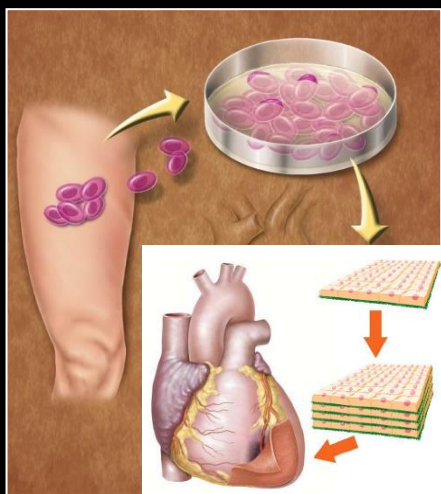


関西国際医療貢献プラットフォーム ～大阪から世界へ医療インバウンドの取り組み～



大阪大学
大阪けいさつ病院
未来医療推進機構
第32回医学会総会
澤 芳樹

世界初重症心不全に対する 自己骨格筋芽細胞シート移植法の臨床試験(2007~)



12月15日 産経新聞

筋肉細胞で心筋再生
阪大 心臓病患者の手術成功

大阪大学が実施した再生医療

心臓の損傷部分を張り付け

シート状にする

6:37

最新治療の情熱と情眼でお送りします

夢が現実になる再生医療

HPから

03-3481-0099



サウジアラビアとの連携による 再生医療の国際医療貢献

サウディ یشارك فریقاً یابانیا فی جراحة نوعیة للقلب

الأحد، 16 مايو 2010

الرياض - سعود الطويري



في خطوة علمية قد تؤدي إلى ثورة طبية على مستوى العالم، شارك جراح سعودي فریقاً یابانیا فی تطوير أنسجة بشرية لتصنع قلباً بنض بشكل طبيعي، وأثبت الاكتشاف نجاحه من خلال تطبيقه على 5 أشخاص.

وأوضح جراح القلب الدكتور صفوق الشمري، الذي شارك الفريق الياباني في صناعة وزراعة القلب الجديد في تصريح إلى «الحياة» أن الاختراع يحتاج إلى تصنيع طبقة

من الجسم كغشاء رقيق ترص بعضها فوق بعض، للحصول على عينة سميكة، بعد ذلك ترزع على القلب حيث تلتصق بنفسها، ولأنها عينة من الشخص نفسه لا يحدث لها رفض، مشيراً إلى أن عملية زراعتها في جسم المريض تحتاج إلى فتحة صغيرة في الصدر.

وأشار إلى أن الفريق الطبي بدأ بالتطبيق على الخلايا الجذعية متوسطة الجودة، إلى أن وصل حالياً بزراعة الخلايا الجذعية عالية الجودة، التي تصل إلى الجسم المصاب بالطريقة الصحيحة بعد التأكد منها، لتقوم بالعمل فور إلصاقها على القلب المريض، وتؤقلم بشكل نهائي بين أربعة و ستة أسابيع، مشيراً إلى أنه في السابق جرب الأطباء جميع الخلايا الجذعية سواء كانت من العضلات أم من الدهون، لكن النتيجة كانت واحدة وهي أن غالبية الخلايا كانت تغسل مع الدم ولا يتبقى منها سوى 5 في المئة في العضو.

وأضاف أنه في حال اعتماد الاختراع الجديد دولياً سيتم الاستغناء عن زراعة القلوب البشرية التي تغل من أشخاص متبرعين، وستعني أيضاً احتمال نجاحها في زراعة بقية الأعضاء البشرية مثل الكبد والكلية والكلى والبكراس وغيرها، لافتاً إلى أن الاختراع الجديد تم تطبيقه حتى الآن على خمسة من المرضى، وهو ما أعاد الأمل للإنسان بقلب قوي بنض بصورة طبيعية، ولا سيما أن الملايين يعانون من أمراض القلب، وآلاف منهم يموتون سنوياً بسبب انتظارهم لمتبرعين قترات طويلة، وأنه سيطبق بعد اليابان في السعودية، تليها الدول العربية والعالم.



医療ツーリズム「先駆け」成功

男性は、アルシャリダ・サーレハさん(58)。約5年前に重症の拡張型心筋症と診断された。同病院は昨年12月、筋肉細胞を採取し、細胞を体外で薄いシート状(直径約5センチ)に培養した後、先月28日、記者会見するアルシャリダ・サーレハさん、鈴木寛・文科副大臣、澤芳樹・大阪大学教授(左から、22日午前)

2010年(平成22年)9月8日(水曜日) 第14版 社会 30

中東富裕層に先端医療

阪大 心臓病患者受け入れ

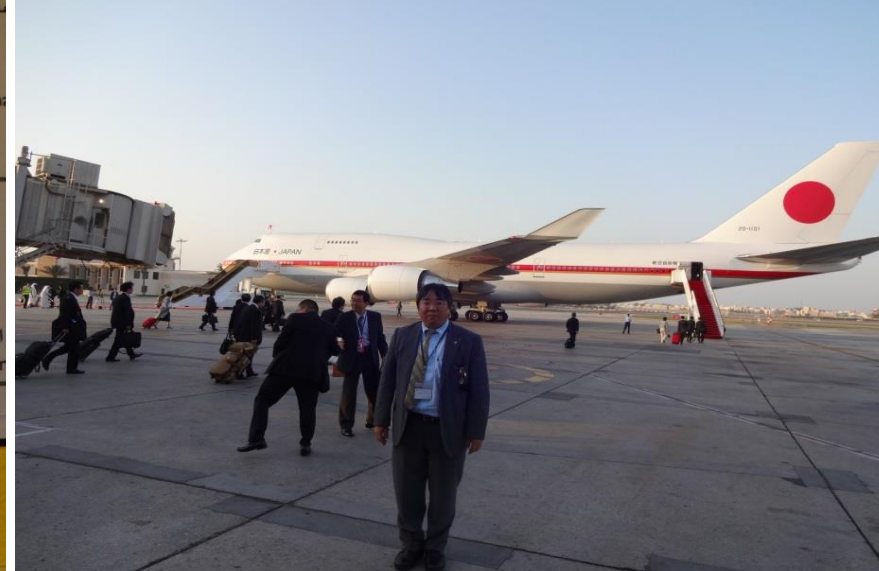
大阪大学医学系研究科の澤芳樹教授(心臓血管外科)は、サウジアラビアの民間病院と連携し、中東諸国の重篤な心臓病患者を受け入れ、再生医療などの高度な医療サービスを始める。年内にも初の患者が到着する予定。今後、先端医療を海外の患者に提供する「医療ツーリズム」への進展も期待される。

澤教授は2009年、心臓のポンプ力が弱まる「拡張型心筋症」の男性患者の足の筋肉の細胞をシート状に培養し、心臓に張り付けて機能を回復させる治療に初めて成功した。澤教授によると、連携先は富裕層の患者が多い首都リヤドにある民間病院。最先端の治療を望む中東諸国の患者を受け入れる予定という。

経済産業省は、日本の新たな成長分野として期待される医療ツーリズムの拡大を目指して今年末にも国民約1200団体で準備研究会を設立し、外国人患者の搬送や出国に際した食事の提供、通訳の手配などを支援し、費用の一部を委託調査として負担する方針。

日本の医療は貢献する!?

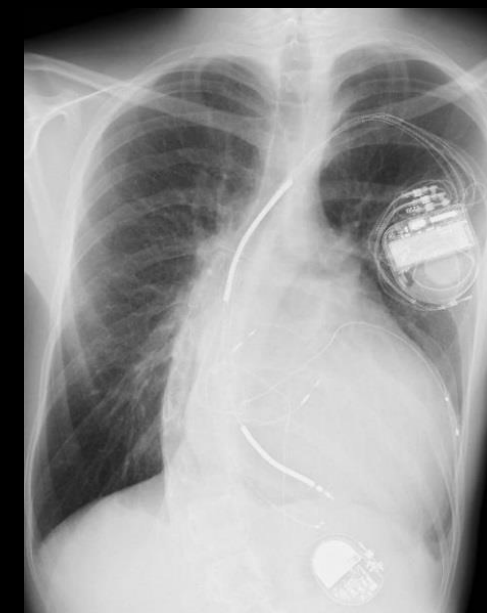
Accompanying Prime Minister Abe's visit to Middle Eastern countries (August/2013)



カタールの患者の再生治療



Before operation



After operation



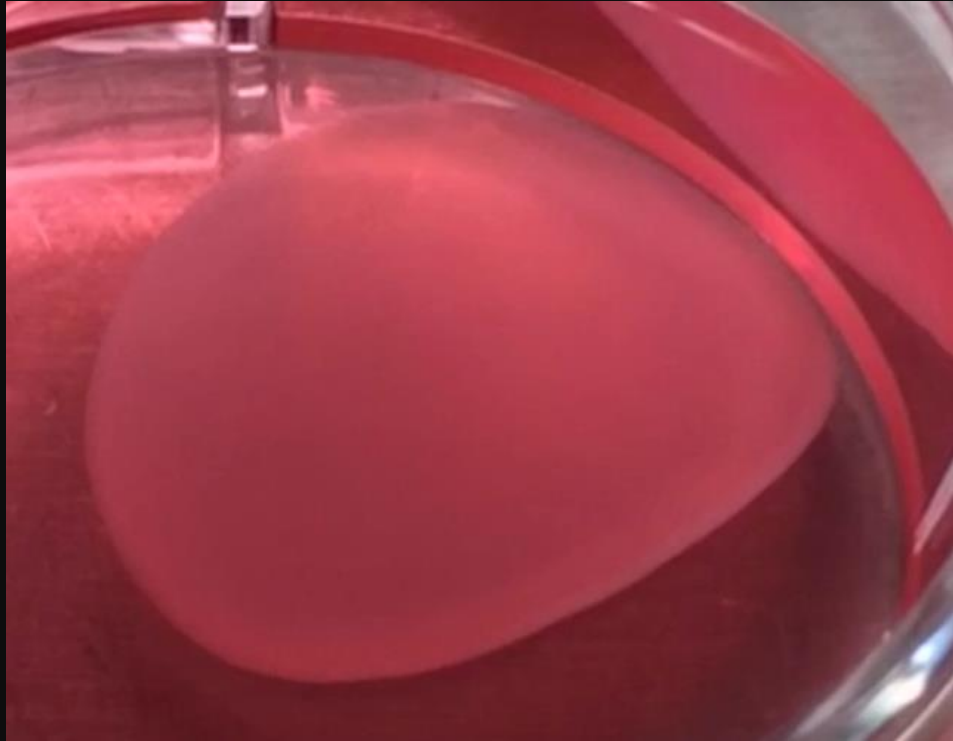
iPS細胞による心筋再生の始まり



山中伸弥教授ノーベル賞受賞 2012年



iPS心筋細胞シート移植 First in Human



- 4例目(2022.8) 5例目(2022.12) 順天堂大学
- 6例目(2023.1) 九州大学
- 1~3例目, 7例目(2023.1) 大阪大学
- 8例目(2023.3) 東京女子医科大学

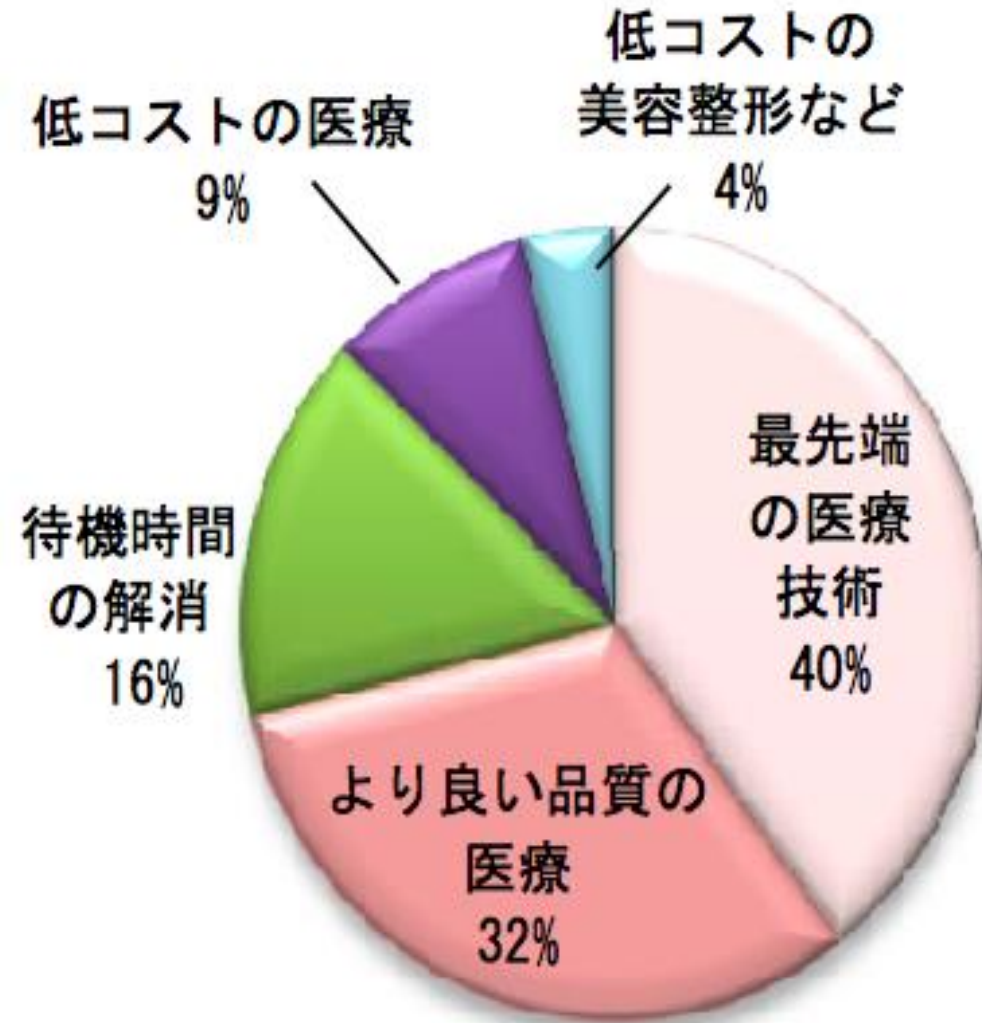
⇒ 薬事承認に向けて申請準備開始
米国進出に向けてアウトバウンド始動

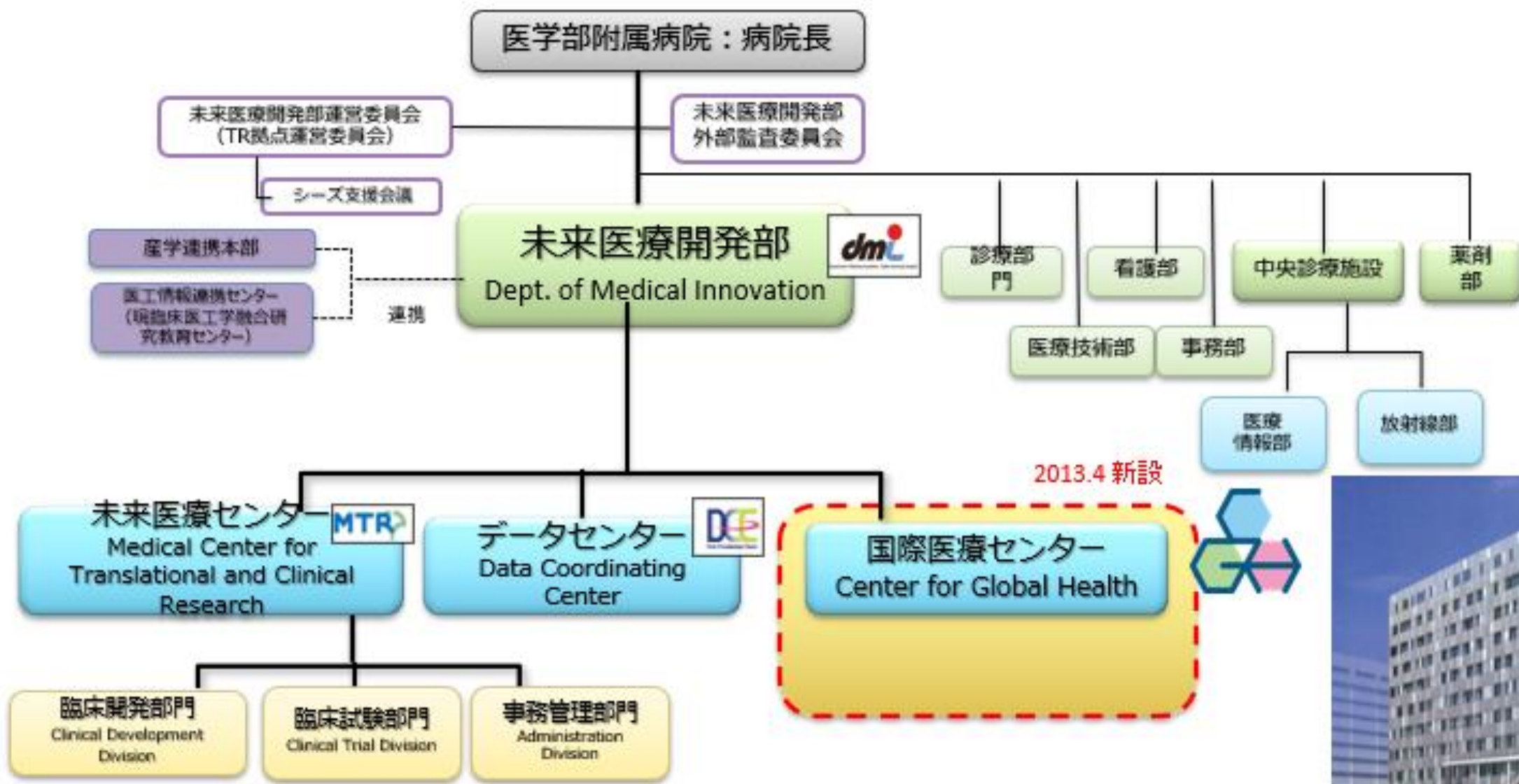
当時感じた国際医療における課題

- 正しく伝えることができる医療通訳は？
- コミュニケーションをとれるナースは？
- 通訳不在の集中治療でのコミュニケーションは？
- 彼らの生活習慣をどう理解するか？
- 治療費をどうとるか？
- 相互理解の欠如を誰が埋めるか？

なぜいま日本の医療が世界に求められているか？

... 以下の4つの要因を求めて 患者がグローバルに移動







大阪大学 国際医療センター Center for Global Health 国際未来医療学講座



大阪大学医学部附属病院科



未来医療開発部国際医療センター

海外からの患者のインバウンド

未来医療のアウトバウンド

国際医療研究推進

国際医療イノベーション人材育成

国際医療に関連する既存の学会

1. 日本国際保健医療学会

設立:1986年

理事長:中村安秀(大阪大学大学院人間科学研究科)

2. 日本熱帯医学会

設立:1959年(熱帯医学研究会として発足)

理事長:狩野繁之(国立国際医療研究センター熱帯医学・マラリア研究部)

3. 日本渡航医学会

設立:1996年(海外渡航者の健康を考える会)として発足)

理事長:尾内一信(川崎医科大学小児科学)

4. 国際観光医療学会

設立:2010年

理事長:寺野彰(学校法人獨協学園理事長・獨協医科大学名誉学長)

- オールジャパン体制で国際医療を推進し、日本全体のレベルアップを目指す。
- 医療通訳，国際医療コーディネートのシステム，人材育成をすすめて，安全安心の医療のチームワークを形成する。
- 外国人診療に関わるシステムを検討し，国際医療の展開，推進を図る

国際医療における研究や教育、人材養成に関する学術ネットワーク設立が必要

オールジャパン体制で国際診療・国際臨床医学の連携推進を図る。



ICM

国際臨床医学会

International Society of Clinical Medicine

2016年 7月設立

インバウンド

診療

医療通訳の育成、運用
医療コーディネーターの育成、運用
医療費の設定、海外保険の適用
各種国際認証の受審

教育

診療研修、臨床修練制度
基礎研究、臨床研究
保健システムの教育

遠隔医療・遠隔医療教育

遠隔症例カンファレンス
ライブサージャリー
遠隔講義

アウトバウンド

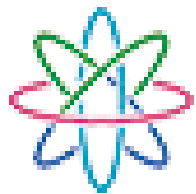
医療機器、医薬品、再生医療の海外展開
新規医療技術の紹介、技術移転
国際共同研究、国際共同治験
邦人の研究/研修のための留学
邦人の海外の病院での診療、教育

全国の大学や医療機関、省庁、
国際医療関連学会などと連携

日本国際保健医療学会
日本渡航医学会
日本熱帯医学会

国際臨床医学 研究・教育

多領域の医療従事者・研究者による学術的 pursuit・探索
国際診療を担う人材の育成



International Society of Clinical Medicine
ICM 国際臨床医学会



認証制度開始

- 医療通訳士認証
- 国際看護師認証

検討中

- 国際臨床研究認定 医
- 国際医療コーディネーター

大阪関西万博 に向けて



一樹百穫

管子

春秋時代(紀元前770年～紀元前400年頃)

「齊」の国の宰相

当医学会について
ABOUT

委員会活動
ACTIVITIES

学術集会
MEETING

学会誌
ACADEMIC JOURNAL

入会・変更
JOIN / CHANGES

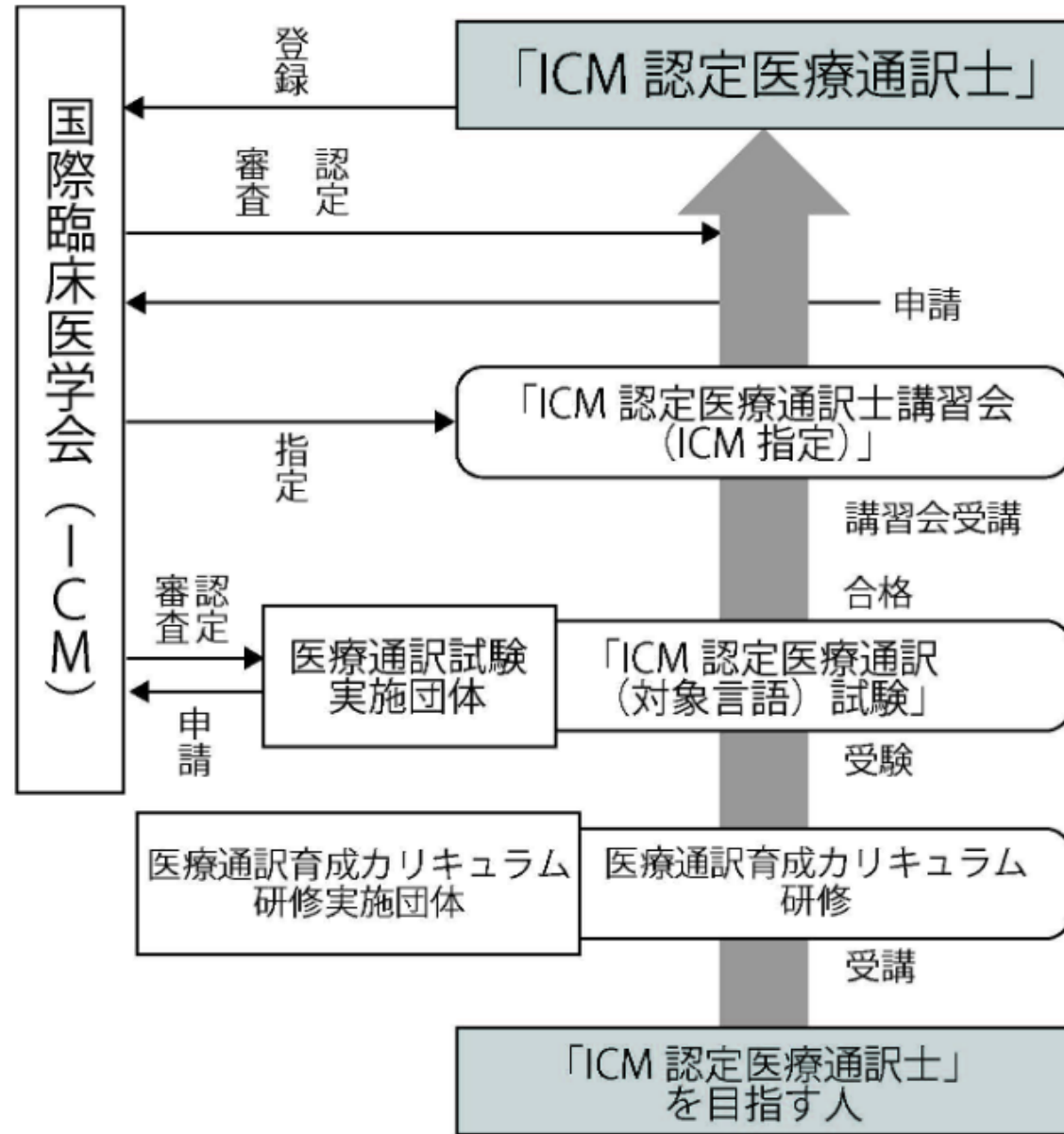
委員会活動 ACTIVITIES

[トップ](#) > [委員会活動](#) > [認定制度認定委員会](#) > [医療通訳士認定部会](#) >
[国際臨床医学会\(ICM\)認定「医療通訳士®」認定制度について](#) > 概要

概要

「国際臨床医学会(ICM)認定 医療通訳士®」の認定制度について

■ 医療通訳試験合格認証により「ICM認定医療通訳士」の認定を得る方法



これまでの言語別認定者数

■ 言語別認定者数

言語	人数
日本語－英語	205
日本語－中国語	171
日本語－ポルトガル語	6
日本語－スペイン語	7
日本語－ロシア語	1
日本語－ネパール語	2
日本語－ミャンマー語	2
日本語－フランス語	3
日本語－韓国語	2
日本語－フィンランド語	1
日本語－ベトナム語	8
日本語－インドネシア語	1
日本語－クメール語	1
日本語－英語/中国語	5
日本語－英語/スペイン語	2
日本語－英語/ポルトガル語	2
日本語－スペイン語/ポルトガル語	2
日本語－英語/ロシア語	1
日本語－英語/フィリピン語(タガログ語)	1
合計	423

※2024年4月現在

当医学会について	認定制度	学術集会	学会誌	入会・変更
----------	------	------	-----	-------



[トップ](#) > [認定制度](#) > [日本国際看護師 \(NiNA\) 認定制度](#) > [日本国際看護師 \(NiNA\) 認定試験 新規申込手順](#)

お知らせ	日本国際看護師 (NiNA) とは	規則・規程	養成研修
新規認定申込手順 (認定試験受験要領はこちら)	認定更新手続きについて	日本国際看護師 (NiNA) 認定者	FAQ

国際臨床医学会 日本国際看護師認定制度 (NINA)

背景

近年、外国人患者の増加に伴い、医療現場においてスムーズな意思の疎通が不可欠であり、言語・文化・背景を理解した看護師をはじめ医療従事者のコミュニケーション能力が求められている。一方、ODA(政府開発援助)等の一環として海外医療支援に赴く医療従事者が経験を積み帰国するケースがあるものの、国内において海外での経験や外国語能力が生かされているとは限らず、待遇等に反映する仕組みも殆ど見られないのが現状である。

狙い

増加の一途をたどる外国人患者の医療機関の対応として、外国人患者やその家族が安全にかつ安心して医療を受けられるよう、外国人患者をサポートできる人材を積極的に育成していかなければならない。患者やその家族と接する機会が多い看護師のうち看護実践能力が高く、異なる言語・文化・社会背景を理解し、コミュニケーション能力、コーディネート能力など外国人患者等への対応に優れた者を審査・評価し、一定以上の基準にある者を日本国際看護師として認定し、活躍の場を広げる狙いがある。

役割

言語、文化、習慣等の違いにより不安を感じる外国人患者やその家族に対し、医療施設内の多職種と連携し、外国人患者に安全、安心な医療の提供を受けられるよう支援する。



常に中立・公平の態度を持ち、外国人患者等と多職種との双方の信頼関係の構築に専心し、患者の「自己決定」のための支援を行う。



必要に応じ、外部の国際医療コーディネーターサービス事業者や国際医療従事者とのコーディネートを行う。



認定基準

◆ 次の1～5すべてを満たすこと

1. 看護師(看護協会会員)であること
2. 実務経験が5年以上あるいはグレカルラダーレベルIII以上であること
3. 日本国際看護師養成研修修了者であること
4. 日本国際看護師認定試験の合格者であること
5. 国際臨床医学会正会員であること

看護師

・日本看護協会
会員

・日本国際看護師
養成研修修了

・国際臨床医学会認定
・国際臨床医学会へ入会

5年毎の更新

・学会学術集会参加、学会主催セミナー受講
(ポイント制)



展望

病院での活躍

・院内での活躍
・多職種との連携
・多様な患者への対応能力



自治体等への働きかけによる 雇用機会の拡大

・受け入れ拡大
・地域レベルでの医療充実



日本国際看護師の認知拡大・増

・一般認知
・活動の国際的認知
・増加する外国人患者への対応



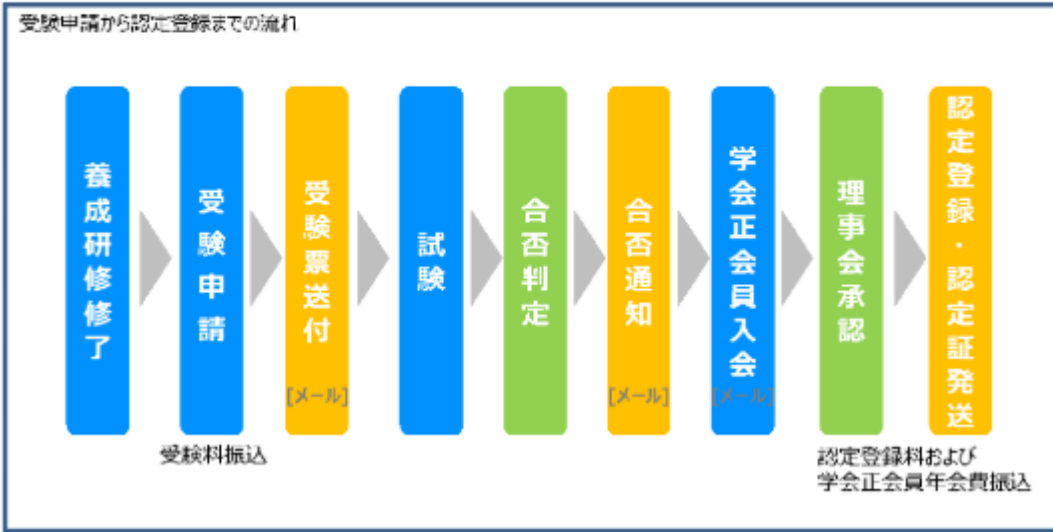
日本国際看護師の
キャリアモデル
形成

効果

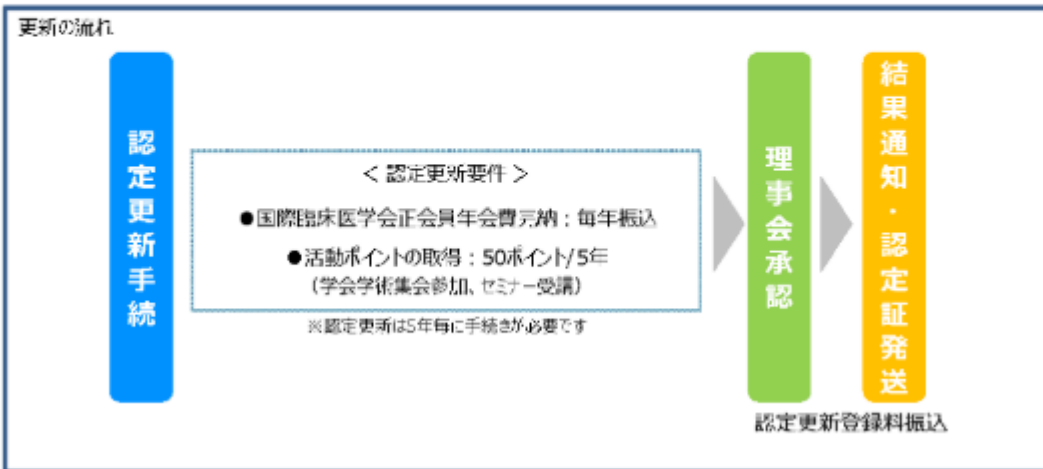
- i. 国内における医療・看護のサービス品質向上
- ii. 日本医療・看護の国際発信
- iii. 看護師の雇用条件向上

日本医療
の国際的
貢献

日本国際看護師(NiNA)受験申請から認定登録までの流れと更新の流れ



認定登録有効期限：5年

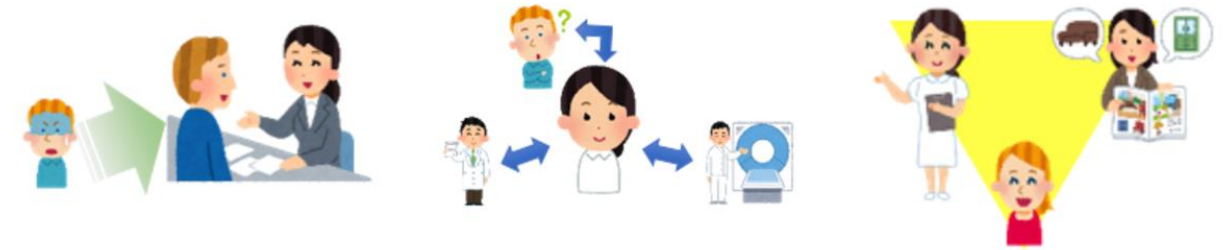


日本国際看護師 (NiNA) の役割

言語、文化、習慣等の違いのある不安を感じる外国人患者やその家族に対し、医療施設内の多職種と連携し、外国人患者に安全、安心な医療の提供を受けられるよう支援します。

常に中立・公平の意識を持ち、外国人患者等と多職種との双方の信頼関係の構築に寄与し、患者の「自己決定」のための支援を行います。

必要に応じ、外部の国際医療コーディネートサービス事業者や医療通訳者とのコーディネートを行います。



展望

病院での活躍

- ・院内での活躍
- ・多職種との連携
- ・多様な患者への対応能力



自治体等への働きかけによる雇用義務の策定

- ・受け入れ拡大
- ・地域レベルでの医療充実



NiNAの認知拡大・増員

- ・一般認知
- ・活動の国際的認知
- ・増加する外国人患者への対応



NiNAのキャリアモデル形成

効果

- 国内における医療・看護のサービス品質向上
- 日本医療・看護の国外発信
- 看護師の雇用条件向上

日本医療の国際的貢献

日本国際看護師 (NiNA) 認定基準

◆ 次の1～5すべてを満たすこと

1. 日本の看護師免許を有していること
2. 実務経験が5年以上であること
3. 日本国際看護師 (NiNA) 養成研修修了者であること
4. 日本国際看護師 (NiNA) 認定試験の合格者であること
5. 国際臨床医学会正会員であること



グローバルヘルス
合同大会2023

グローバルヘルスの海へ

多様性を包摂する豊かさを求めて

第64回 日本熱帯医学会大会
第38回 日本国際保健医療学会学術大会
第27回 日本渡航医学会学術集会
第8回 国際臨床医学会学術集会

2023年

11/24 **金** ▶ 11/26 **日**

会場: 東京大学本郷キャンパス 安田講堂他



jagh



ICM

4学会理事長懇談会

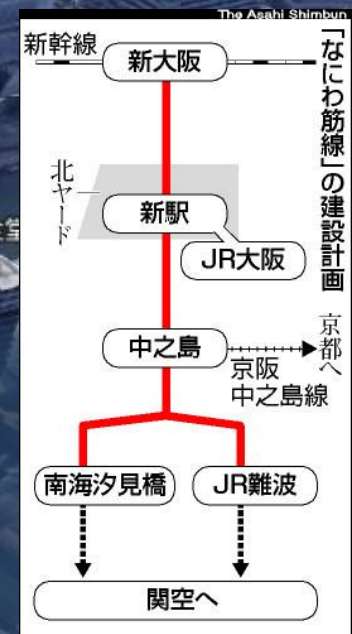
第32回日本医学会総会でも議論を



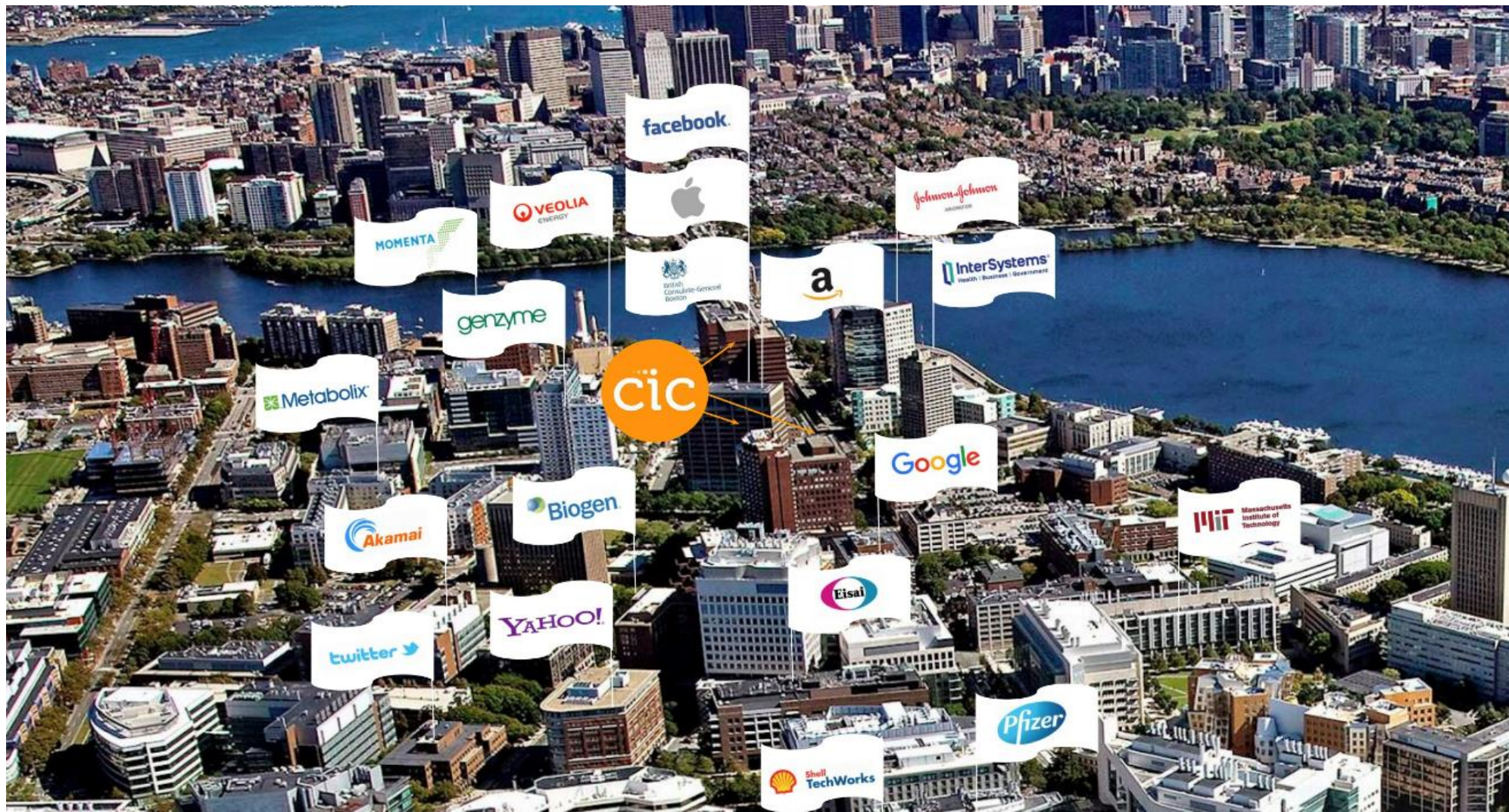
大阪のブランド 中之島

Nakanoshima Qross

Center for Frontier Medicine in Osaka



ボストンダウンタウン型スタートアップインキュベーション



MITと連携・CICを中心としたボストンダウンタウンという好立地で成功
スタートアップ・病院・製薬・GAFA・情報系企業・ファンド等の集積と世界展開



大阪中之島に未来医療国際拠点が民間の力でスタート
産官学の知の集積によるディープテックヘルケア国際拠点
一つ屋根の下で未来医療を社会実装
ダウンタウンの好立地で世界展開に成功している
ボストンをめざしたベンチャーインキュベーターを展開

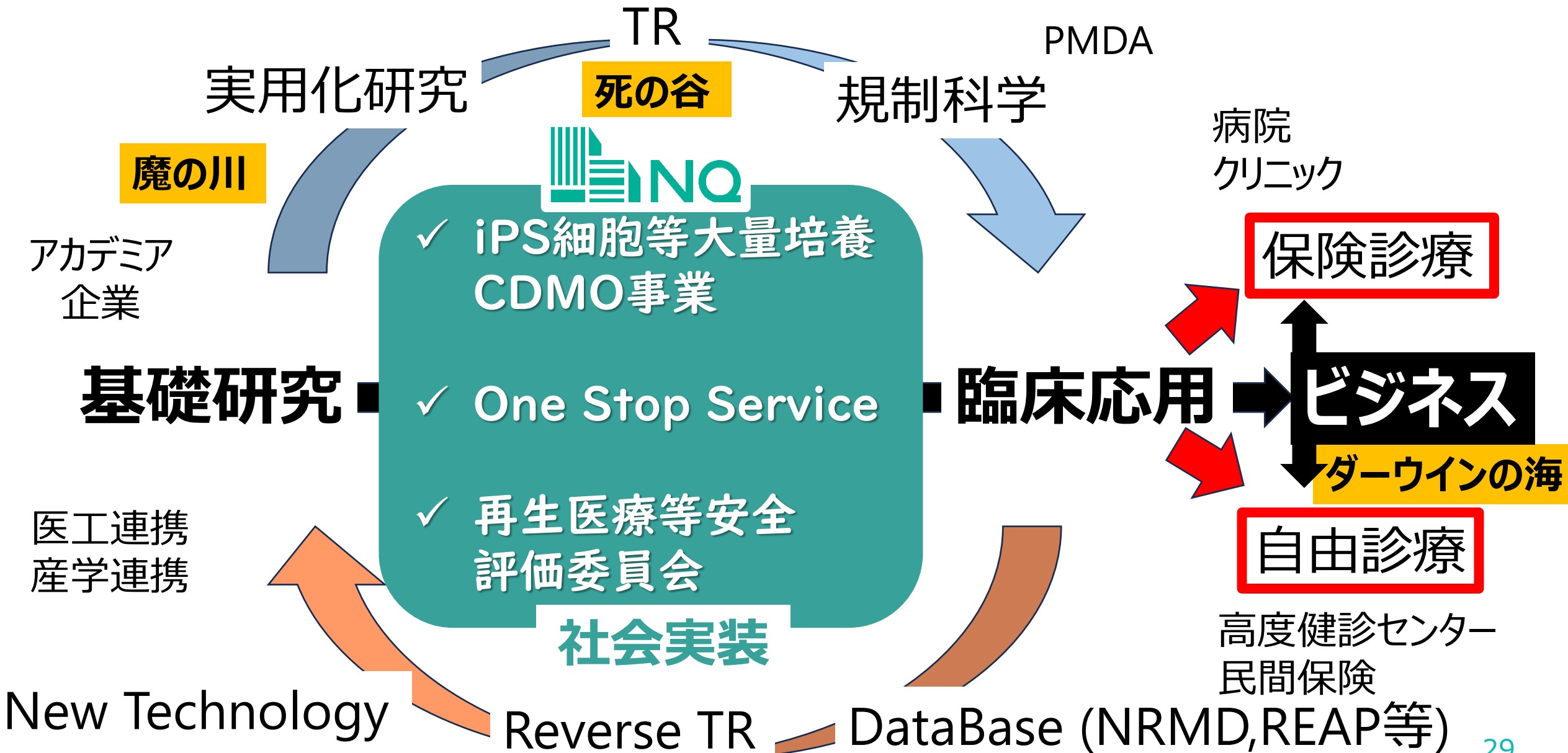


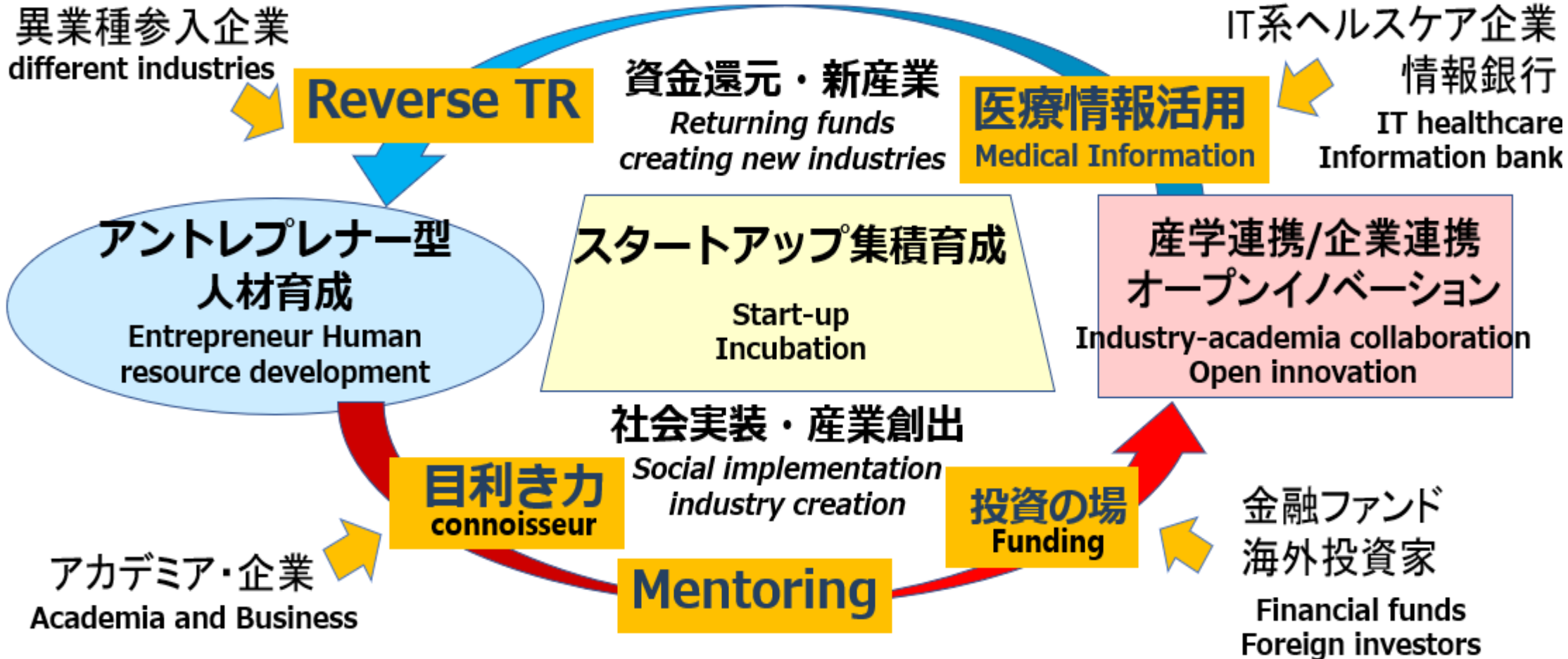
R&D棟

再生医療企業集積
バリューチェーン
CDMO事業
人材育成
スタートアップ育成
医療データベース

Medical棟

循環器病院
高度健診センター
再生医療クリニック





International relationship

すでに在関西領事館を中心に諸外国からの国際連携への期待
海外企業の日本におけるビジネスチャンス!!の場



大阪・関西国際医療貢献推進委員会について 高度医療紹介 受診を希望の方へ

大阪・関西国際医療貢献プラットフォーム

大阪は、高度医療で 世界に貢献します。

JAPAN PRIDE OSAKA

Advanced medical 高度医療紹介

国際医療貢献病院・国際医療協力病院

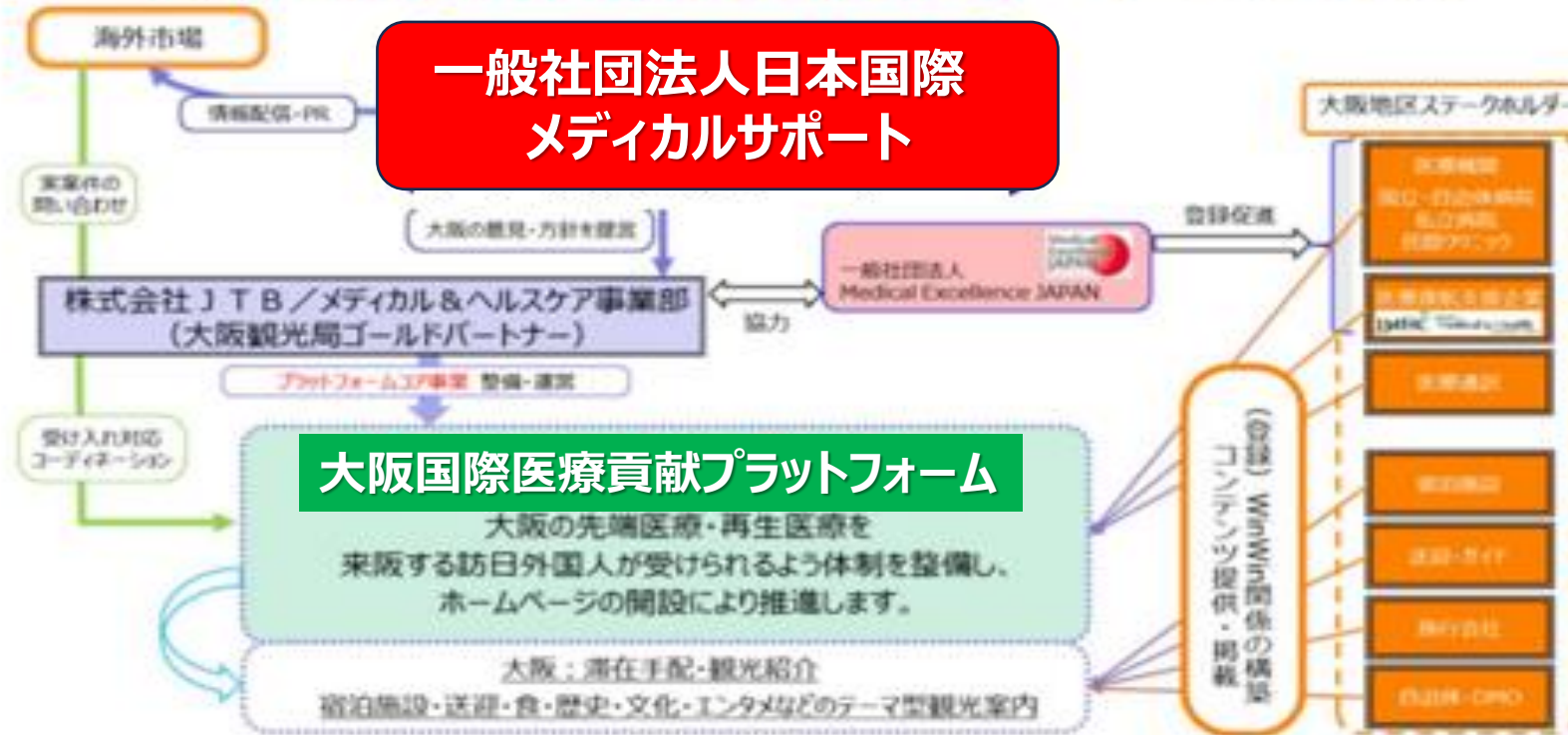
実際の運用はJTBに委託



全世界で日本の医療サービスや
ヘルスケアサービスを必要とする方々に、
日本の先進医療をご紹介します、ご提供する
お手伝いをし、国際医療貢献を図ります。

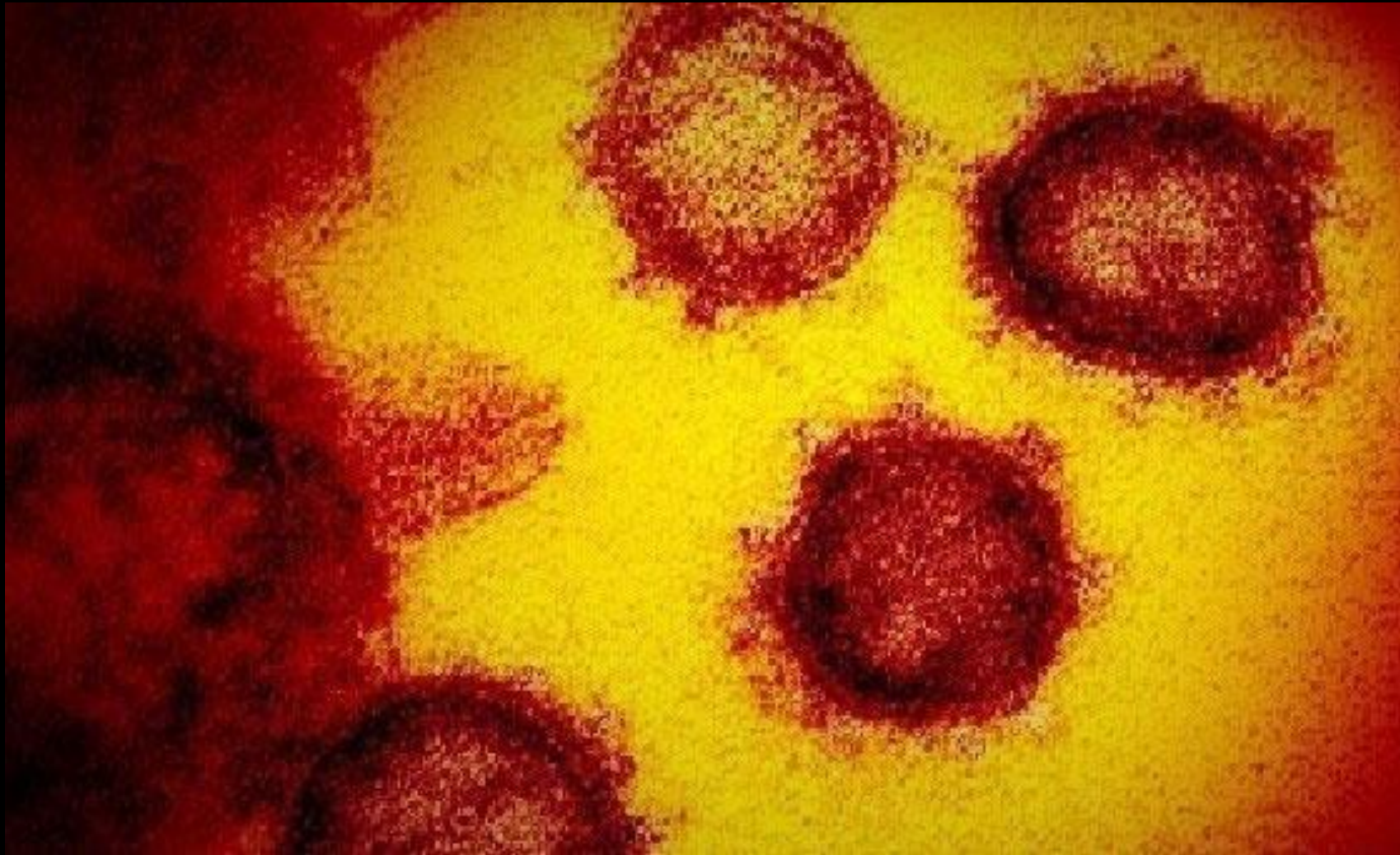
大阪国際医療貢献プラットフォームとの連携

自国でできないレベルの医療を世界から受け入れ
急増するインバウンド医療にも対応する
日本が世界に医療で貢献するプラットフォーム



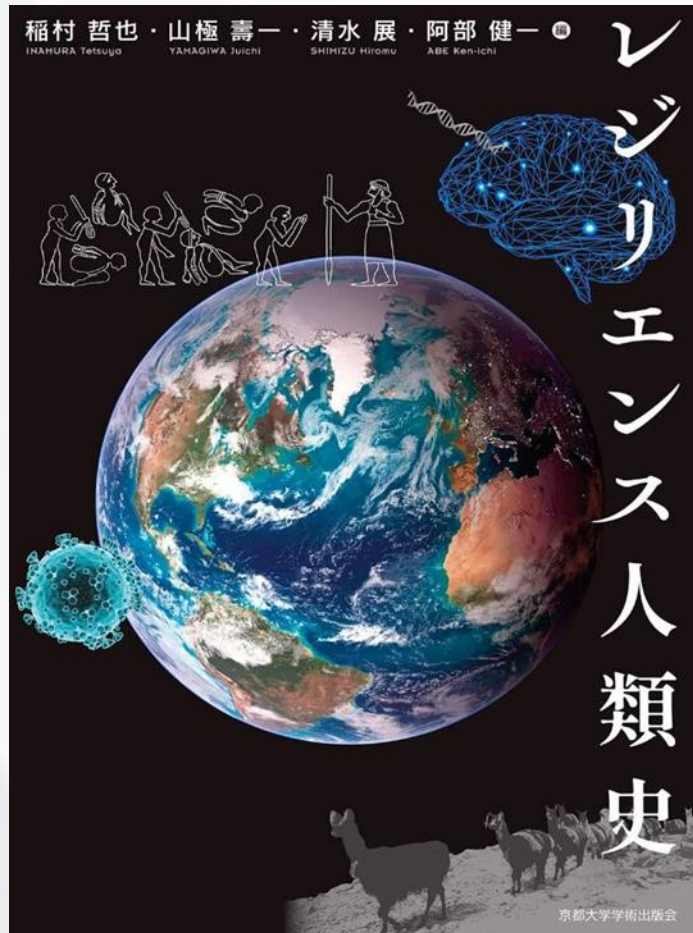
日本の高いレベルの医療を期待して、自国で治せない高度医療を中心に海外からの医療インバウンドを受け入れ、医療機関に繋ぐゲートウェイ機能を設置





世界の感染者3億2000万人 死者550万人

Resilience



“弱さ”を“強み”に変えたヒトの歴史から学び、レジリエンスすなわち「**危機を生き抜く知**」の視座から、数百年のヒトの来た進化の道を見直すことで、多角的かつ包括的にヒトと特性をとらえ、これからの社会と生き方における「**より良き未来の選択**」のために。

山極壽一



メインテーマ

医学の
未来への挑戦

～みらいへの挑戦と貢献～



第32回日本医学会総会

メインテーマ：

医学のレジリエンス～みらいへの挑戦と貢献～

学術講演会	学術展示	一般（市民）展示
2027年 4月23日（金） ～25日（日）	2027年 4月22日（木） ～25日（日）	2027年 3月20日（土） ～28日（日）
大阪市北区 中之島エリア 大阪国際会議場、リーガロイヤルホテル大阪		大阪市北区 うめきたエリア

第32回日本医学会総会 会頭：

澤 芳樹（大阪大学、大阪警察病院）

第32回日本医学会総会 準備委員長：

坂田 泰史（大阪大学大学院医学系研究科循環器内科学）



The 32nd
General Assembly of
the Japan Medical Congress
2027



いのちをまもる大阪けいさつ病院

Thank you for your attention

2025.1新病院 開院予定
南東側(玉造筋)からの外観